

「こまたこ」の作り方

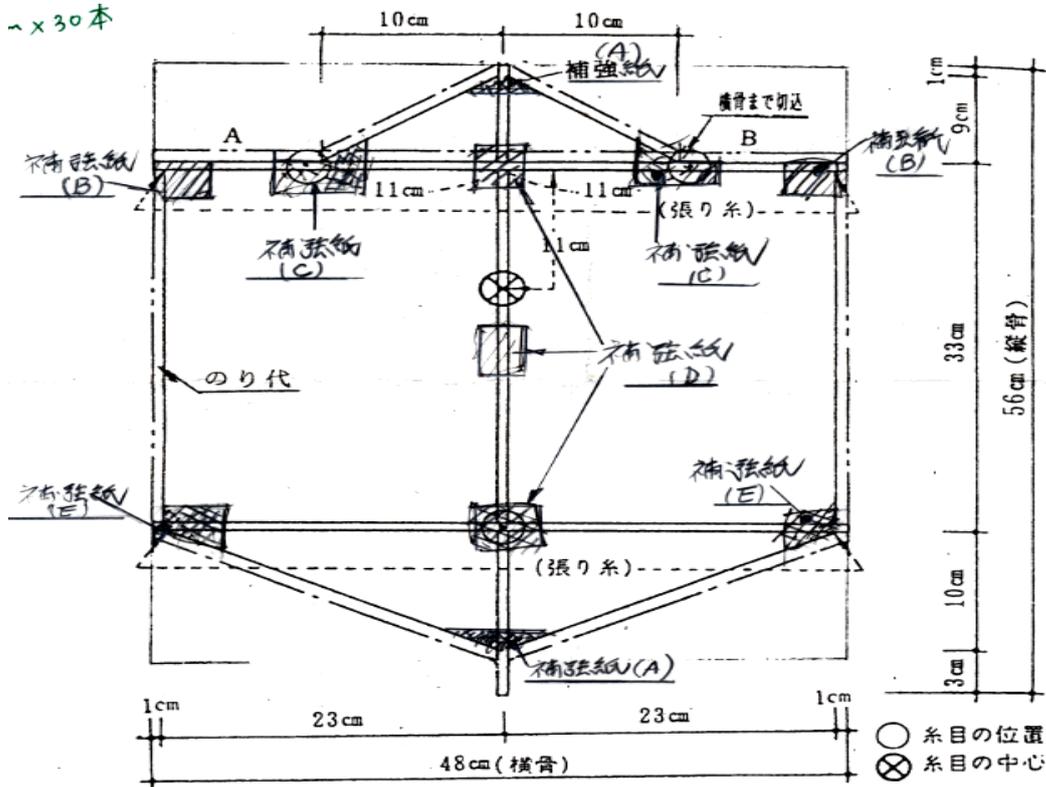
2013年1月26日

1. 用意する材料

- (1) 和紙(64cm x 47cm); 1枚(型紙により切り出し) ←
- (2) 補強紙(型紙を参考に切り出し; 和紙の残り分を利用) ←
- (a) A 補強紙; 2枚--- 縦骨上下
- (b) B 補強紙; 2枚--- 上横骨両側
- (c) C 補強紙; 2枚--- 上横骨糸通し部分
- (d) D 補強紙; 3枚--- 縦骨中間、横骨交差部分(2か所)
- (e) E 補強紙; 2枚--- 下横骨両側 ←
- (3) 横骨; 48cm ; 2本(90cmの竹ひごを切断) 竹ひご
- (4) 縦骨; 56cm ; 1本(90cmの竹ひごを切断) 3本
- (5) 糸目糸(上); 110cm ; 1本(タコ糸ボビンより切断); 黄色 ←
- (6) 糸目糸(下); 65cm ; 1本(タコ糸ボビンより切断); 青着色 タコ糸
- (7) 張り糸 ; 35cm ; 4本(タコ糸ボビンより切断) 赤色; 長さ合計; 315cm ←
- (8) 尾; 幅4cm x 100cm ; 2本(障子紙から切断) ← 障子紙; 切り出し
- (9) ポリ小袋; 1枚; (2)(a)~(e)及び(5)~(7)を入れる。
- (10) 輪ゴム ; 2本(骨及び尾をまとめる)

和紙; 1枚
で用意出来る

~x30本



1. 和紙を図のように凧の本体を切りとり、うら返しにしてAとBの部分を残して頭部の三角、左右、尾部の大きい三角部分の周囲を1cmずつ折りのり付けして貼る、
2. たて骨56cmの竹ひごの裏側にのり付けし凧本体の左右の中心に頭部1cm出して貼りつける、頭部と尾部の部分に三角形の紙にのり付けし、たて骨の上から貼り付けて補強する。
3. よこ骨48cm(2本)上の骨、竹ひごの裏側にのり付けし凧本体のたて骨と、よこ骨の中心を重ねて貼り付けAとBの部分をやこ骨にかぶせ貼る。下の骨は大きい三角形上の部分で、たて骨と、よこ骨の中心を重ねて、貼り付ける。上下の骨の交差点に四角(5cm x 5cm)の紙を貼り補強する、下骨の両端にも三角形の紙を貼り補強する。
4. 糸目糸は長さ110cmの糸を上のお印2ヶ所に両端を結び、65cmの糸を下のお印に結ぶ、三本の糸の先端を持ち反対の手でしごいて行き糸目中心印の位置する。
5. 張り糸は35cm4本をそれぞれよこ骨の上下両端に結ぶ(そりは5cm位)
6. 尾を付ける、幅は4cm、長さは200cm

「一文タコ」の作り方

2013年1月26日

1. 用意する材料

- (1) 和紙(64cm x 47cm); 1枚(寸法図により切り出し); 2枚分/一枚
- (2) 補強紙(型紙を参考に切り出し; 和紙の残り分を利用)
 - (a) A補強紙; 1枚--- 縦/横骨交差位置
 - (b) B補強紙; 2枚--- 縦骨上下両側
 - (c) C補強紙; 2枚--- 横骨両側
 - (d) D補強紙; 4枚--- 縦/横骨中間部分(4か所)
- (3) 尾; 幅4.5cm x 長さ64+64+32=160cm
- (4) 骨関係
 - (a) 横骨; 38cm ; 1本(断面丸型; 円弧曲げを行う); 別途購入
 - (b) 縦骨; 38cm ; 1本(グニャグニャたこの残り分利用; 1本)
- (5) 糸目糸 ; 80cm ; 1本(タコ糸ボビンより切断); 赤着色 タコ糸長さ
- (6) 張り糸 ; 30cm ; 2本(タコ糸ボビンより切断) ← 合計; 140cm
- (7) ポリ小袋; 1枚; (2)(a)~(d)及び(5)、(6)を入れる。
- (8) 輪ゴム ; 2本(骨及び尾をまとめる)

1、和紙または障子紙から図1のように切り取る。

イ・一文風の本体 24×24 (cm)

ロ・風の尾 幅 4.5cm 長さ 64+64+32=160cm

ハ・5×16 (cm) ÷ 2 対角線で2枚の三角形に切り左右のひれにする。

ニ・4角1枚 5×5 (cm)

ホ・直角三角形2枚 5×5 (cm) ÷ 2

竹ひご 縦骨 5×2 (mm) 長さ 38cm 1本・横骨太さ 2mm 長さ 38cm 1本

2、①・一文風の本体(和紙)の対角線上に縦骨の竹ひごを置き、頭部と尾部にホ・直角三角形をのりつけて張り、とめる。

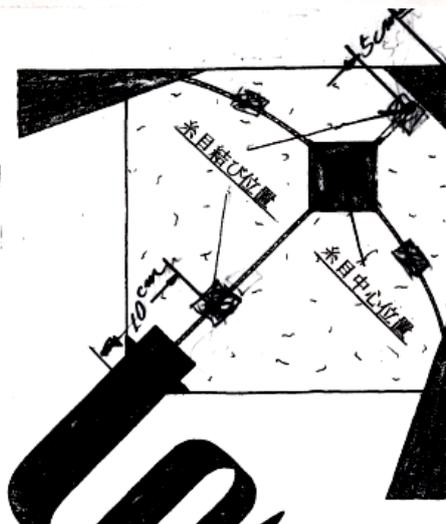
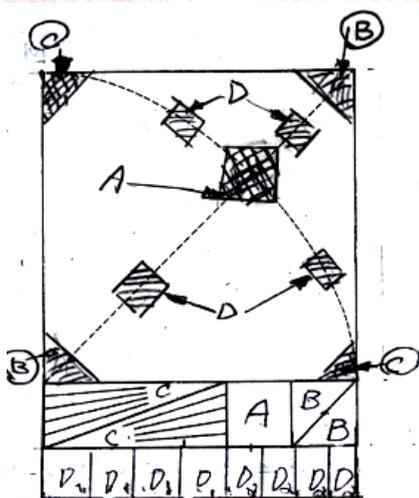
②・縦骨上から1/3にしるしをつける。

③・横骨の中心と縦骨1/3のしるしと重ね左右のはしが一文風の本体左右の角に合せ、ハの三角形(ひれ)をのりつけて止める。

④・風の尾をつける。

3、①・糸目糸は 頭部より5cm、尾部より10cm の位置、糸目の中心は縦骨と横骨の交差点、糸の長さ 80cm

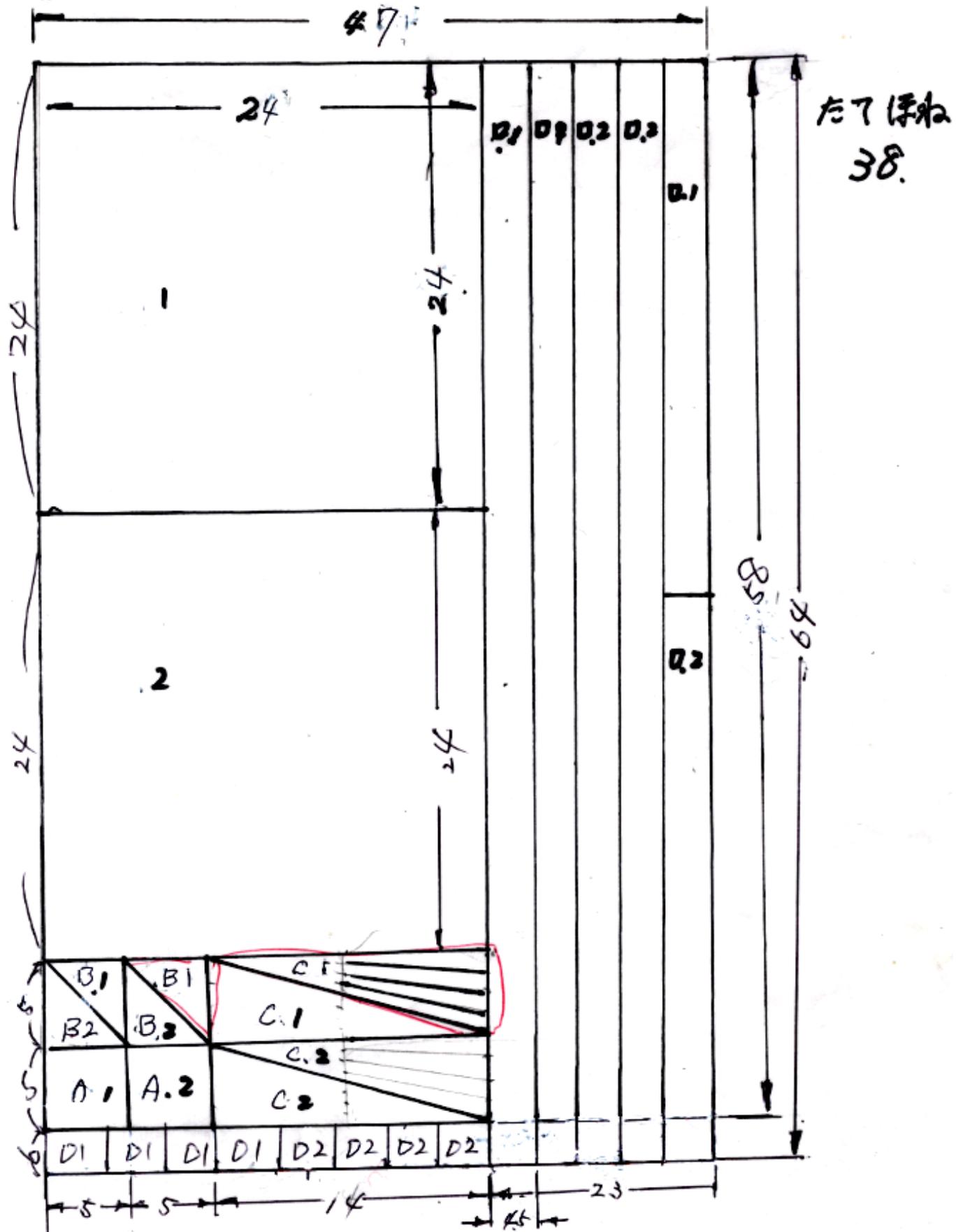
②・張り糸は一文風の本体左右の角の横骨に結ぶ、糸の長さ 30cm 2本



一文用 (25分)

単位 cm.

寸法図



「グニャグニャタコ」の作り方

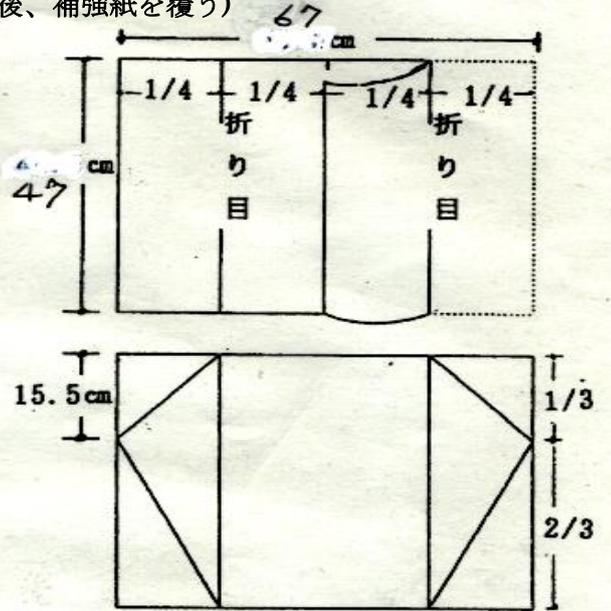
2013年1月26日

1. 用意する材料

- (1) 和紙(64cm x 47cm); 1枚(型紙により切り出し);
- (2) 補強紙(型紙を参考に切り出し; 和紙の残り分を利用) ←
- (a) A補強紙; 6枚--- 縦左右上下中間 ← 和紙; 1枚
- (b) B補強紙; 2枚--- ; 糸通し部分二か所; 別途厚紙を用意する。(鳩目穴あけ)
- (3) 尾; 幅33cm x 28cm (スリット3cm毎) ; 障子紙を使用
- (4) 骨関係
 - (a) 縦骨; 47cm ; 2本(90cmに竹ひごを切断)
 - (5) 張り糸 ; 70cm ; 1本(タコ糸ボビンより切断)
 - (6) ポリ小袋; 1枚; (2)(a)、(b)及び(5)を入れる。
 - (7) 輪ゴム ; 1本(骨を纏める)
 - (8) セロテープ ; 適宜(補強紙(B) x 2を糊つけ後、補強紙を覆う)

1. 紙を切る

- ①紙を横長において、中心線を決める。
このとき、上端下端にか
かるく折り目をつけておく
- ②図のように、両端を中心線に合わせて
強く折り目をつける。
- ③両側の上から、15.5cmのところ
にしるしをつける。
- ④図のように、紙を切る。



2. 絵をかく

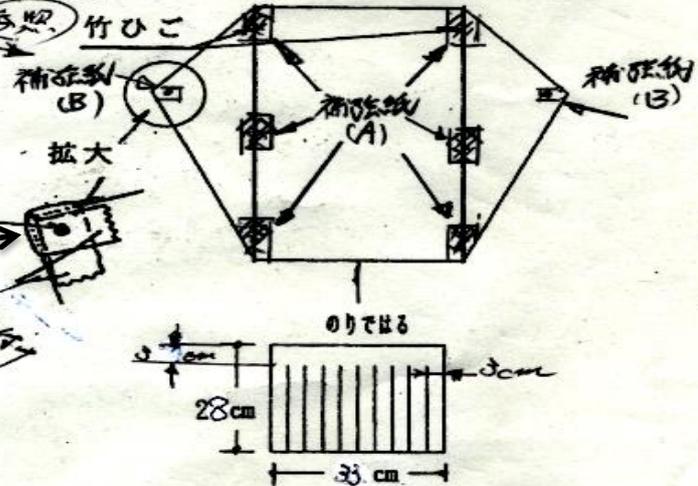
マジックインキや絵の具で絵をかく。

3. 骨をつける

- ①折り目に合わせて、竹ひご2本切る。
- ②竹ひごの身側(つむぎ側)にのりをつけて、
補強紙に補強する。(図参照) 竹ひご

4. 足をつける(障子紙を使用)

- ①よこ 33cm、たて 28cmに紙を切る。
- ②図のように、切込をいれる。
- ③のりでたこにつける。

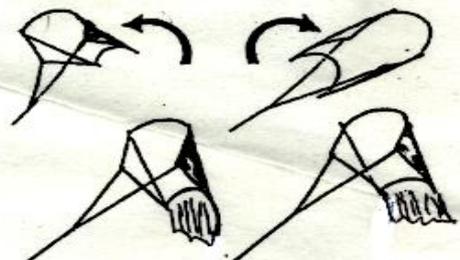


5. 糸目をつける

- ①図のところセロテープで補強し、
糸を通す穴をあける。
- ②糸の長さは、50cm + 結び目分 = 70cm
糸目の中心に道糸を結ぶ。

6. 調整

たこは尾をつけなくてもあがりますが、
もしたこのバランスが悪くて、たこが
左にまわる時は右の骨の下に、たこが
右にまわる時は左の骨の下に尾をつけて、
たこがまわらないように調整してください



1. 糸目と糸目中心（糸目の中心）

凧に直接結びつける糸（凧をあげる糸でわない）の構成を糸目と言う。また、糸目をなしている糸を指して、単に糸目と言うこともあるがこの場合は糸目糸と言う方が正確といえる。

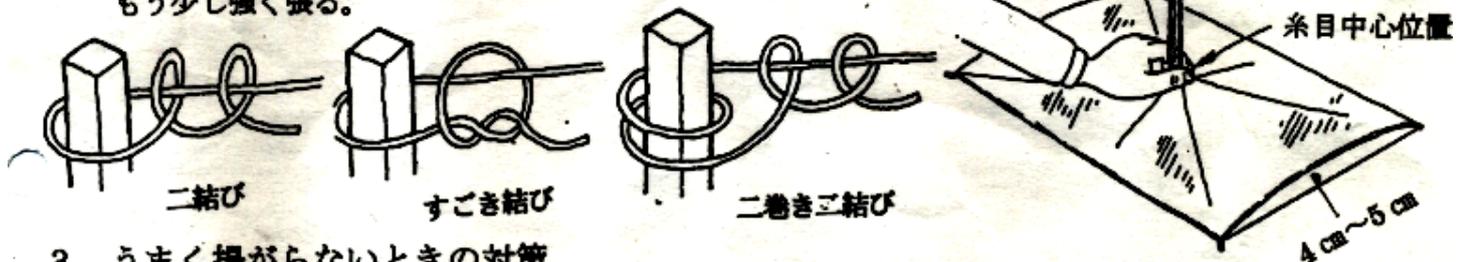
糸目の先端を片手で持ち反対の手で凧に向かって糸をしごいていったとき凧に突き当たった点を糸目中心または糸目の中心と言う。糸目中心位置は凧の左右の中央で上から全長の1/3の位置が標準です。

2. 張り糸（凧を弓のようにそらす糸）の結び方

角たこ・こまたこは上下の横骨先端に結び張る。

ダイヤたこは横骨の両先端に結び張る。

張り糸の張り具合は4cm~5cmぐらいで風が強い時はもう少し強く張る。



3. うまく揚がらないときの対策

I 凧が安定して揚がらないときは原因をいくつか考えて その調整をする。

対策1 凧の外形、糸目糸の長さ、尾の長さなどで左右対称であるかを順次調べる。

対策2 凧が揚がらないとき糸目中心を少し上にあげてみる。

II 凧が回ってしまうとき

対策1 凧のそりが左右均等かどうかを見る。

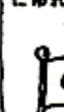
対策2 尾をつける、すでに付いている場合は少し長くする。

対策3 糸目中心を下げて見る。

III 凧がかたむくとき

対策1 凧が右にかたむくときは糸目中心を少し左にする、また左にかたむいたら糸目中心を少し右にする。

対策2 尾が2本の場合はかたむく方の反対の尾を少し長くして見る。

凧と風速 凧は風が弱いと揚がりません、また強すぎると凧がこわれてしまいます、 凧は下の図の風力2~3が最適です。							
風力	0	1	2	3	4	5	6
地上10mでの風速 (m/秒)	0-0.3	0.3-1.6	1.6-3.4	3.4-5.5	5.5-8.0	8.0-10.8	10.8-13.9
記号	—	┆	┆┆	┆┆┆	┆┆┆┆	┆┆┆┆┆	┆┆┆┆┆┆
地上でのようす	煙はまっすぐのぼる 	煙がわずかになびく 	木の葉が動く 	旗が動く 小枝がわずかにゆれる 	砂ぼこりが立つ 	葉のある低い木がゆれる 	大枝が動く かさがさしに 